

# りそな経済フラッシュ

## (現行の金融緩和と植田新総裁の就任会見)

- ▶ 就任会見において、植田新総裁は「(金融政策の)点検や検証があってもいい」としつつも、緩和継続の姿勢を示し緩和修正観測がやや後退。
- ▶ 現状の金融政策と想定される修正策、これまでの植田新総裁の発言を整理した。

現行の 金融政策	概要	想定される修正策	植田新総裁の発言	市場への 影響
<b>イールドカーブ コントロール</b> (長短金利操作)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10年国債利回りを0%の±0.5%に誘導(2022/12に±0.25%から拡大)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・撤廃(誘導目標撤廃)</li> <li>・目標年限の短期化(年限10年から5年へ?)</li> <li>・変動幅の再拡大(±1.0%へ?)</li> </ul>	<p>「経済にとって最も適切と考えられるイールドカーブを形成するための仕組み(中略) <u>現状の経済、物価、金融情勢を鑑みると継続することが適当</u>」</p>	<b>大</b>
<b>マイナス金利</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日銀当座預金に△0.1%を適用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・解除後、追加利上げ(0.0%から0.1%へ)</li> <li>・解除(△0.1%から0.0%へ)</li> </ul>	<p>「マイナス金利政策は現在の強力な金融緩和のベースになっている(中略)<u>継続するのが適当</u>」</p>	
<b>資産買い入れ</b> (ETFおよびJ-REIT、CP・社債等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ETF12兆円上限、J-REIT1,800億円上限に買い入れ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・買い入れ金額減額</li> <li>・買い入れ条件厳格化</li> </ul>	<p>「<u>大量に買ったものをどうしていくかは大問題だ</u>」(2月所信聴取に於ける発言)</p>	
<b>政府との共同声明</b> (2013年1月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物価安定目標を前年比上昇率2%</li> <li>・できるだけ早期に実現を目指す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「2%」との目標に言及せず</li> <li>・物価目標を「長期的な目標」に変更?</li> </ul>	<p>「共同声明の考えたかは適切であって直ちに<u>見直す必要はないという点で一致</u>」 「大きく経済物価情勢が変わっていった時に<u>改めて政府と議論させてもらう余地</u>」</p>	
<b>オーバーシュート型 コミットメント</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>CPIが2%目標を安定的達成まで緩和を継続する方針</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「データ次第」で金融政策の調整を行う方針へ</li> </ul>	<p>「<u>オーバーシュート型コミットメント、当面続けるべきだ</u>」 (2月所信聴取に於ける発言)</p>	

出所:日銀、各種報道

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否にかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることがあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願いいたします。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。